

■郷誠之助 実業家・財界人。政策多数建議するも政治には関わらず、独占資本発展に専念、財界リーダーになった。

ごうせいのおすけ

薩摩藩士密航1865＝ 岐阜県黒野村(岐阜市)で、後に大蔵次官・男爵・貴族院勅撰議員となる郷純造の長男に生れた。

明治維新・・・1868＝ 3歳：

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：

少年時代には放蕩を重ねたが、

明治14年政変1881＝16歳：

岩倉具視没・1883＝18歳： 東大に入学後、

秩父事件・・・1884＝19歳： _ドイツのハイデルベルク大学に留学、

7年間にわたって、ヘーゲル・スペンサー・ミルなどを研究し、

帝国憲法発布1889＝24歳：

足尾鉍毒始・1891＝26歳： 学位を得て帰国、

大本教・・・1892＝27歳： _伊藤博文首相に産業統計に関する意見を具申し、農商務省の囑託になったが、まもなく陸奥宗光農商務相が辞任したため、囑託を辞任した。

日清戦争始・1894＝29歳：

日清戦争終・1895＝30歳： _日本運送の社長に就任して、実業界に入り、

_以後、日本メリヤス取締役、日本鉛管社長、入山探炭社長、王子製紙取締役を歴任。

ビアノ国産化・1900＝35歳： *_とくに入山探炭社長としての経営の成功によって、その手腕を広く財界に知られるようになり、

田中正造直訴1901＝36歳： _続く王子製紙の整理でも新聞用紙を国産化するのに成功した。

日露戦争終・1905＝39歳：

その後、日本醤油醸造・帝国商業銀行の事業経営に失敗したが、

韓国併合・・・1910＝45歳： 父の死去により男爵を襲い、

大逆事件判決1911＝46歳： 貴院議員になった。*東京株式取引所の理事長に就任。

明治天皇没・1912＝47歳：

大正政変・・・1913＝48歳： 東京商業会議所特別議員、

この間、渋沢栄一・中野武宮らと東洋製鉄を設立、

民本主義・・・1916＝51歳： 株価暴落に対処、

ロシア革命・1917＝52歳： _日本工業倶楽部の創立に参画し、専務理事となる。

本格政党内閣1918＝53歳： 軍需委員会委員、

ベルサイユ条約・1919＝54歳： 臨時財政経済調査会委員などを引受けた。

大暴落・・・1920＝55歳： 株価暴落に対処、

原敬首相暗殺1921＝56歳：

水平社結成・1922＝57歳： 日本経済連盟会常務理事に就任。

関東大震災・1923＝58歳： *_関東大震災の善後処理にも手腕を発揮して、財界における地位を不動のものにして、

護憲三派圧勝1924＝59歳： _東京株式取引所の理事長を退任。

_直接政治にかかわろうとせず、第2次山本内閣・清浦内閣への入閣懇望を断わる。

昭和に入っても、各会社整理にかかわったが、

金融恐慌・・・1927＝62歳： _関東大震災で経営難に陥っていた東京電燈の会長として入社し、

共産党事件・1928＝63歳：

海軍軍縮条約1930＝65歳： 社長を兼ね、小林一三を副社長として、再建に当たり、電力問題に奔走。

満州事変・・・1931＝66歳： _全国産業団体連合会設立で会長、

五一五事件・1932＝67歳： 日本経済連盟会長、

国際連盟脱退1933＝68歳： _日満実業協会設立で会長、

帝人疑獄事件1934＝69歳： この年、東洋製鉄が日本製鉄に併合される。_日本団体生命保険設立で会長。

二二六事件・1936＝71歳： 東京電燈を退職。

日中戦争始・1937＝72歳： 内閣参議、

第二次大戦始1939＝74歳： 「財界随想」。_中央物価統制協力会議結成で会長。

大蔵省顧問や日本貿易振興会会長も兼ね、_戦前日本の財界のリーダー的存在であったが、

日米開戦・・・1941＝76歳：

・・・1942＝77歳： _没した。